



多臓器性人獣共通感染症 (Zoonosis) ②

<https://l-hospitalier.github.io>

2016.1

感染対策の基礎知識

#27

アルボウイルス目 (arbovirus) は節足動物 (arthropod) : 関節と甲殻を持つ生物 (虫のこと) の吸血により動物に伝播されるウイルス (ARthropod BORne virus)。前記 5 群ブニヤウイルスと 4 群のフラビウイルスも含み、国際委員会分類と整合しないので、ここではアルボウイルスの名称は用いない。

<ボルチモア分類 5 群> **ラブドウイルス**

科 (砲弾形、ギリシャ語で「棒」) **Lyssa**

virus. ①狂犬病 (Rabies virus) (4 類)

致死率 100 % (発症後完治したものは 2 名) 年間 5 万が死亡。日本では 1956 年、犬、ヒト翌年ネコ、以後発病記録はない。

2006 年フィリピン在住 2 名が帰国後発

病死亡。蛍光抗体法で抗原検出、RT-PCR で診断。治療法はない。2004 年蝙蝠に噛

まれたジーナ・ギーズは Dr.ウィロビーによりケタミン+ドルミカムで昏睡状態に、リ

バビリン+アマンタジンで回復した (ミルウォーキー・プロトコル)。その後この方法

で 5 名が生存。米では犬よりネコの感染源が 3 倍、アライグマ輸入で狂犬病が急激に

増加。噛まれなくても粘膜の接触で感染が成立。潜伏期は最長 6 ヶ月。ワクチン多種

あり。暴露後はヨードアルコール消毒+ワクチン+ヒト抗狂犬病グロブリン。<4 群

> (一本鎖 (+) RNA) **フラビウイルス** 科、フラビウイルス (属) **①黄熱病ウイルス (4**

類) : フラビは黄色、重症は黄疸から。死亡率は 30~50 %。ネッタイシマカが媒介。

米陸軍病院 (2005 年メリーランド州に移転) にその名を冠する Walter Reed や野口英

世が黄熱病研究中に感染で死去。Max Theiler (1951 年 Nobel 賞) のワクチンがある。

今は 17D-204 株生ワク。②**日本脳炎ウイルス (4 類)**、豚が感染源。発病率は 1 %

以下、致死率 30 %。日本では 2013 年、9 名、2015 年にも発生。従来のワクチンに

ADEM (急性脱髄性脳脊髄膜炎) の発生が疑われたため一時中断していた予防接種は

2009 年再開。2012 年ワクチン死亡例 (10 歳)、併禁のオーラップ+ジェイゾロフト

を使用*。③**デング熱 (Dengue fever) (3 類)**、語源は筋肉痛で歩く姿が気取ったダ

ンディーに似たから。熱帯シマカが媒介、潜伏期は 4~7 日。4 種の血清型がある。通

常重症化しないが、回復後に他の血清型のデング熱に再感染すると抗体がウイルスと結

合。この抗体はウイルスを不活性化できないが、抗体結合ウイルスは免疫系をすり抜

け、極めて重症化、出血、毛細管破綻など**デングショック症候群を生ずる (抗体依存性**

感染増強 (Antibody-dependent enhancement ADE)。血小板減少あり、アスピリン

は使用不可。④**西ナイル脳炎 (熱) (3 類)** : 1937 年ウガンダの西ナイル地方で分離。

2005 年米国で発症 3000、死者 119。CDC は⑤**セントルイス脳炎 (St. Louis**

encephalitis : SLE) と誤認、非難された。(USAMRIID が確認)。日本では 2005 年ロス

からの帰国者が川崎で発病 (5 類、7 日以内)。鳥と蚊が媒介。アレクサンダー大王は

バビロン入城時多数の**カラスの死骸**を見た後発病、高熱、下肢麻痺、意識混濁などで約

10 日後死亡 (32 才) **。

*QT 延長症候群か？

**プルターク「英雄伝」。マラリヤ、ウエストナイル脳炎、癲癇、毒殺など諸説あり。



砲弾型の Lyssa virus



狂犬病の犬、後肢の麻痺？